

中長期目標 (学校ビジョン)		保護者・地域と連携し、望ましい職業観・勤労観を身につけ、知・徳・体のバランスのとれた次 代を担う若者を育てる		今年度の 重点目標	①鳥商生としての自覚と誇りを持ち、自ら考え、判断し、行動できる力をつける ②望ましい職業観・勤労観を身につけ、進路実現に向けて努力する ③健康に留意し、学力向上と部活動に励む ④ビジネス社会及びグローバル社会に必要な力を身につける		
年 度 当 初					評 価 結 果 ()月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1. 鳥商生としての 自覚と誇りを持ち、 自ら考え、判断し、 行動できる力をつ ける	【自覚と誇りを持つ】 ・鳥商生であることに自覚と誇りを持ち、 規律正しい生活を送っている。 ・校内、校外を問わず、明るい笑顔 で気持ちのよい挨拶ができ、制服 を正しく着こなしている。	・86%の生徒が、鳥商に入学して良 かったと思っている。 ・98%の生徒が社会・学校のルールを 守るよう心がけており、91%の生徒が自 ら挨拶、正しい着こなしを実践している。 ・今春卒業生の93%が、鳥商は地域社 会から信頼されていると考えている。	・90%の生徒が、鳥商に入学して良かった と思っている。 ・校内、校外問わず、明るい笑顔で気持ちの良 い挨拶、制服の正しい着こなしが実践されてお り、地域社会から高い評価を得ている。 ・目的意識を持って、遅刻、欠席のない規律正 しい生活を送っており、無遅刻生徒が80%以上 である。(遅刻1人当たり 0.4回以下。) ・学校行事、全校集会等で規律ある行動を取 ることができ、校歌を大きな声で歌うことがで きる。 ・学校行事、生徒会活動、部活動が活発に行わ れており、生徒一人ひとりの集団活動に対する 参加意識や貢献意識が高い。 ・すべての生徒が、安心、安全な学校生活 を送っている。	・年間を通じて、職員、生徒会、部活動が 連携した毎朝の挨拶運動を実施する。 ・授業開始・終了時の挨拶を大切にし、規 律のある授業展開を図る。 ・第2回鳥取県商業教育フォーラムによつて 全国レベルの商業高校(宇都宮商業、 八幡商業、熊本商業)に学び、商業高校 生としての研鑽を図る。 ・商高体操、強歩大会等の学校行事をとし て集団活動への貢献意欲を喚起する。 ・遅刻生徒に対して、生活態度の見直しを 促す継続的指導を行う。 ・生徒にとって見守られ感と安心感を感じ ることのできる学校生活の構築に努める。			
	【自ら考え、判断し、行動できる】 ・規範意識、人権意識が高く、秩序 だった言動ができるとともに、周囲 や集団のために貢献する姿勢が身 についている。	・74%の生徒が無遅刻である。(遅刻1 人当たり0.56回) ・87%の生徒が学校行事、生徒会活 動、部活動に積極的に参加している。 ・91%の生徒が、安心、安全な学校生 活を送っていると感じている。					
2. 望ましい職業 観・勤労観を身に につけ、進路実現 に向けて努力する	【職業観、勤労観を身につける】 ・3年間を通した効果的な体験的活 動によって、自立・自律のための実 践力や応用力の育成が行われている。	・キャリア教育に関する行事が体系的計 画的に実施され、多角的な体験的活動 が積極的に行われている。 ・生徒たちが、鳥商教育の集大成である 鳥商デパートを主体的に企画・運営す ることによって、「協働、レジリエンス、問 題解決」力を身につけている。 ・自己表現学習プログラムによって、社 会人として必要不可欠とされるコミュニ ケーション能力、プレゼンテーション能 力の基礎基本を身につけている。 ・全商検定1級検定の複数資格合格に 向けて取り組む姿勢が定着している。 (今春卒業生の全商検定1級3種目以上 合格者は81名、取得率42%であり、と もに過去最高であった。)	・社会生活、職業生活を視野に入れた進路選択 がなされており、様々な体験活動や各種模擬試 験、実務検定試験等に意欲的に取り組んでい る。 ・職業資格の取得に努め、全商1級3種目以上 取得者100名以上が達成されている。 ・体系的計画的なキャリア教育によって培われ た明確な目的意識に基づいた進路選択を行 い、就職内定100%、進学合格率100%が達 成されている。 ・進学希望者は、1年次より補習、進学模擬試験 等に積極的に取り組んでいる。	・自己表現学習プログラムに基づき、進路 指導部、学年、商業科、自己表現力育成 委員会が連携して、社会生活、職業生活 に不可欠な自己表現力(聞く力、話す力、 読む力、書く力、伝える力)を育成する。 ・第22回鳥商デパートを、地域貢献、異校 種間(小中高)連携の場、職業観、勤労観 を身につけるキャリア教育の集大成として 位置づけ、さらに発展させていく。 ・検定・進学補習を体系的計画的に実施 し、商業科目と普通科目の学びをともに深 化させる。 ・卒業生による進路講演会、高大連携(鳥 取環境大)等によって、進路意識を高め る。 ・夏季休業中に、全学年で進学者対象の 勉強会宿・セミナー等を実施する。			
	【進路実現に向けて努力する】 ・体系的計画的なキャリア教育に よつて、将来の社会生活、職業生活 に結びつく進路選択が行われている。 ・進路実現に資する模擬試験、実務 検定試験等に積極的に取り組んでい る。						
3. 健康に留意し、 学力向上と部活動 に励む	【健康に留意する】 ・基本的生活習慣の大切さをよく理 解し、食事・睡眠・運動に留意した 規則正しい生活を送っている。	・95%の生徒が欠席、遅刻をしないよう に日頃から心がけており、実際に73% の生徒が規則正しい生活(就寝、起床、 食事など)を送っている。 ・授業における学習意欲・態度は概ね 良好であり、81%の生徒が授業に集中 できている。 ・1日当たりの自宅学習時間は、調査直 前(昨年6月)では175分、調査後(昨年 10月)では45分。自宅学習を継続的 にする習慣が身につけていない生徒がい る。 ・部活動への関心は高く、ほとんどの生 徒が加入し活発に活動しているが、全 員加入には至っていない。(昨年度の部 活動加入率は93%) ・昨年度の全国大会出場を果たした部 は10(14大会)であり、全部活動20の 半数となっている。	・健康や安全に対する意識が高く、食事・睡眠・ 運動を大切にしたい規則正しい生活を送っている 生徒が80%以上となっている。 ・商業科目と普通科目のバランスを大切にし、継 続した学習習慣が定着している。自宅学習時間 は、定期調査期間以外で1日60分以上となつて いる。 ・部活動に100%加入し、学習と部活動の両立 に努めている。 ・部活動が知・徳・体のバランスのとれた人格形 成の場となっており、優勝を目指した努力が積み 重ねられている。 ・各々が切磋琢磨し、全国大会出場の部活動が 10以上となっている。	・薬物乱用防止、スマホ・SNS等に関する生 徒対象の講演会・研修会を実施するとと もに、学校だより等をおして健康、安全に ついて保護者への啓発を行う。 ・生徒が主体となった健康教育LHRを実 施し、生活リズム確立の大切さについて の意識を高める。 ・0限体育等をおして、基礎体力伸長を 図る。 ・文科省研究指定事業(ケーススタディ、知 識構成型ジグソー法)、県外教員との授業 実践交流、中高連携等によって授業力の 向上を図り、生徒の学ぶ意欲を高める授 業改善を進める。 ・計画的に自宅学習に取り組むために、自 宅学習時間調査の結果に基づいた面接 指導等によって、継続した学習の大切さを 自覚させる。 ・人格成長の場としての部活動の意義を自 覚させることによって、協調性、社会性、忍 耐力等を涵養する。			
	【学力向上に努める】 ・高い意欲をもって授業に臨み、秩 序のある学習態度が保たれている。 ・進路実現を意識した自宅学習が、 継続的に積み重ねられている。						
	【部活動に励む】 ・すべての生徒が部活動に加入し、 優勝を目指した努力を積み重ねる ことで、人間的に成長している。						
4. ビジネス社会及 びグローバル社会 に必要な力を身に つける	【社会人に必要な力を身につける】 ・笑顔の挨拶、時間厳守、正しい制 服の着こなし、丁寧な言葉遣いがで きる。	・鳥商生としての自覚と誇りに基づく挨拶 や正しい着こなしは概ね実践されて いるが、習得した知識や技術を活かそう とする実践力・応用力が十分に身に ついていない生徒がいる。 ・基本的なコミュニケーション能力を徐々 に身につけてきているが、社会生活、職 業生活で通用する自己表現力や知識・ 教養を積極的に吸収しようとする姿勢に 欠けている生徒がいる。 ・昨年度の図書貸出冊数は1,921冊、1 人あたり3.1冊。(図書館改修のため実 質3ヶ月間が閉館であった。) ・昨年度の全商英語検定2・3級取得者 は、前年度に比べ24名増加したが(3学 年合計で昨年度619→今年度643)、1 級取得者は大きく減少した(→昨年度6 →昨年度1)。	・鳥商で学ぶ生徒としての自覚と誇りをもち、挨拶 やマナー、正しい制服の着こなしが身に ついてい ・校内、校外を問わず、高い規範意識、人権意 識に基づいた適切な言動を取ることができ る。 ・鳥商教育の集大成である第22回鳥商デパート において、鳥商生活全般で習得したビジネス実 践力が十分に発揮されている。 ・多くの生徒が知識・教養を拡げること意義を 見出し、図書館の年間貸出冊数が1人当たり6 冊以上になっている。 ・生徒がグローバル社会を肌で感じるることがで きるように、留学生、外国の訪問団を積極的に 受け入れている。 ・全商英語検定の取得状況が、昨年度より向上 している。	・学校評議員会、学校関係者評価委員会 等による外部有識者からの意見、提言を、 学校経営に積極的に反映する。 ・「デパートゆにっと」(長野市)の参加等 によって、第22回鳥商デパートを前回よりさ らに充実させる。 ・鳥商手帳を日常的に活用するように指導 し、自己管理能力を高める。 ・図書館改修(ハード面)を機に、より魅力 ある図書館づくり、読書教育(ソフト面)の 充実を図る。 ・全商英検前の検定補習をより充実させ る。 ・1年英語を習熟度別授業展開するととも に、ESS部の活動を活性化し、英語活用 力を高める。			
	【ビジネス実践力を向上させる】 ・授業や体験的活動等によって習 得した知識や技術を、実践力・応用 力の育成に活かすことができる。						
	【グローバル感覚、語学力を磨く】 ・異なった意見に対する寛容の精神 と、自分で考え伝える力を兼ね備え た自己表現力が身につけている。 ・グローバル感覚、英語活用力が向 上している。						